

【ACKグループ中期経営計画を強化 20年までに社員500人以上増員】

ACKグループ

中期経営計画を強化

20年までに社員500人以上増員

ACKグループ(野崎秀則代表取締役社長)は、中期経営計画「ACKG2013」で掲げた2020年の売上高500億円以上、営業利益20億円の目標達成をより確実なものとするため、重点化事業の売上高を14年(第9期)末の1・5倍増とするなどとした同計画の強化策をまとめた。人材の確保・育成を着実に進め、社員500人以上、

女性社員100人以上の増員も図る。有資格者も技術士300人、博士40人以上増員する。

中期経営計画「ACKG2013」は13年9月期にスタート。13年(第8期)は売上高327億円、営業利益5億円を確保し、14年(第9期)も「海外の受注が好調に推移しており、売上高、営

業利益ともに13年を上回る見込み」(野崎社長)だという。

ただ、20年の目標達成をより確実なものとするには「現行計画の▽強みの活用▽事業創造▽育成と連携」の三つの基本方針に加え、▽個▽連携▽3軸(国内公共・国内民間・海外)市場の三つを強化する必要がある」(同)と判断した。

具体的には、第10期(15年9月期)の時点でインフラ保全・運営管理など八つの重点化事業のプロジェクトを63件以上推進し、重点化事業の「総合化」を図り、ナンバーワン、オンリーワンの総合化・複合化した技術・

サービスを提供できる人材を養成、グループとしての体制を構築する。

このため、第10期(15年9月期)からの3カ年で15億円を投資し、海外現地法人の設立によるグローバルネットワークの構築や大学・異業種との連携強化などを進める。ACKグループ企業がそれぞれ柔軟に投資資金を運用できるよう助成制度も創設する。

人材についても第10期(15年9月期)から第12期(17年9月期)の3カ年で、社員を230人、女性社員を60人、グローバル人材を110人増員。女性管理者10人も養成し、技術士150人、博士15人も確保する。